



Complex along the Wall

行為の複合による都市・建築空間の構成

1. はじめに 現代の都市では、様々な用途が複合されたいわゆる複合建築が多くみられる。それらは用途に応じた空間の組み合わせによってつくられているため、建物内では多様な活動が行われているが、用途相互の関係は少なく、独立した空間ごとに別々の人の活動を想定した複合となっている（図 1）。しかし、建物の用途を複数の人の行為の総体として捉えると、ひとつの目的のために様々な行為が行われたり、異なる行為の人が同じ空間に存在したりなど、より細かい水準で行為の複合を考えることができる（図 2）。また人の行為の中には「〇〇しながら〇〇する」というような複合的な状態も起こることから、一人の中で起こる行為の関係によって用途どうしが空間的に結びつくような構成を考えることも可能である。そこで本計画では、行為の複合に関する分析と考察を通して、それをもとにした複合施設の設計プロジェクトの提案を行うことを目的とする。

2. 都市および建築空間における行為の複合

2-1. 用途の複合について 都市・建築空間においてみられる行為の複合について、事例を検討する。東京

都千代田区神田神保町は、多くの書店が軒を連ねる古書店街として有名であり、またその周辺地域には飲食店としてカレー屋が多く存在している。これは、カレーライスがスプーンだけを用いてとれる食事であり、もう一方で本を読むといった複数の行為を同時にすることが可能なためである。そのため、まとまったエリアの中で、書店で本を買い、その後本を読むといった行為の展開、本を読みながらカレーを食べるといった行為の複合がみられる（図 3）。

TUTAYA 代官山（設計：クライン ダイサムアーキテクツ／アール・アイ・エー）は、カフェやレンタルショップなどの用途が入る建物である。ここでは、建物の中で、カフェで飲み物を買って、その後飲み物を飲むといった行為の展開、飲み物を飲みながら CD を視聴するといった行為の複合がみられる（図 4）。

2-2. 空間の境界について 行為が行われる空間の関係を考えるために、空間の境界の特徴的な事例について検討する。五反田の住宅（設計：長谷川豪建築設計事務所）は二棟の間に幅 1.2m の隙間状のホールをもち、その入口に 4 層分の高さの扉が設けられた住宅である。

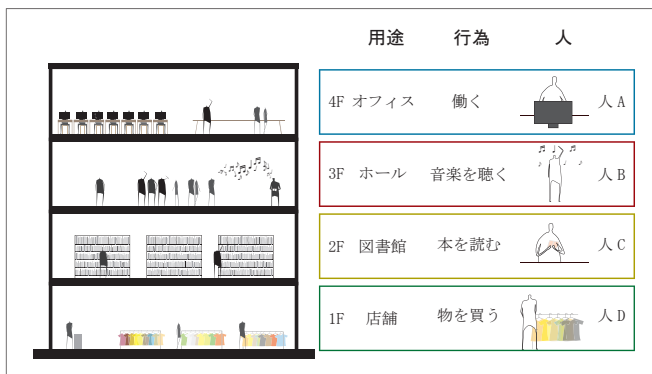


図 1. 複合建築の機能と行為の関係

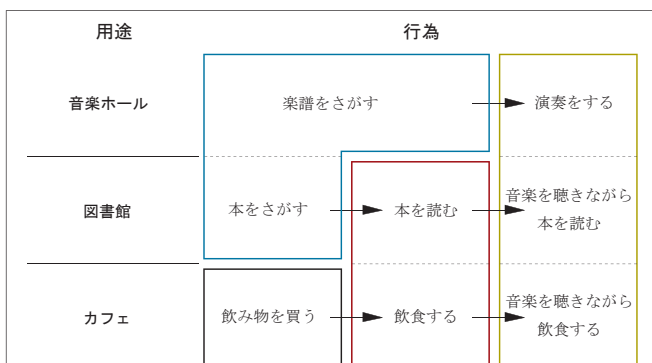


図 2. 用途の細分化による行為の関係

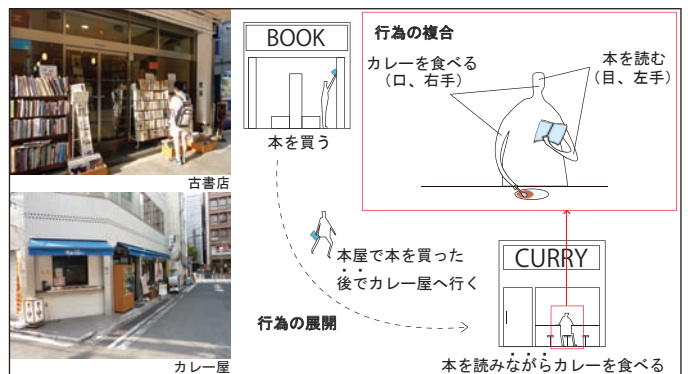


図 3. 神田神保町における行為の複合と展開

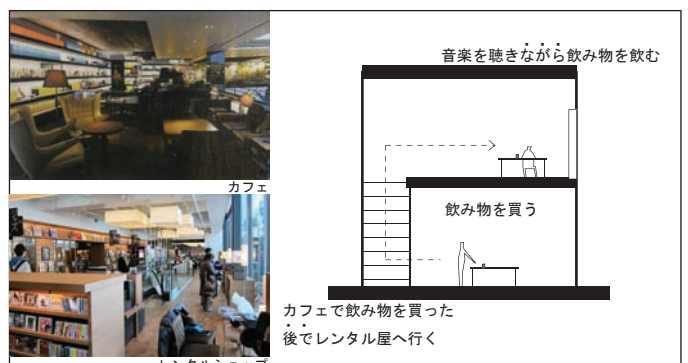


図 4. TUTAYA 代官山における行為の複合と展開

また、ホールは扉を開くことで外部空間を取り入れることができる。ここでは、内部空間とホールは壁で囲む／囲われるというまとまりを形成しており、外部空間と接する面を増やしている。（図5）。

House N（設計：藤本壮介建築事務所）は三重入れ子の形式からなる住宅である。開口にガラスの入っていない1番外側の殻は敷地全体を覆い、2番目の殻は内部空間を囲い取り、3番目の殻はその中を、仕切る境界となっている。これらの操作により、それぞれの空間は複数の境界面に挟まれた空間となっており、境界の表裏を曖昧にしている。また、開口は境界によって隔てられた領域相互の関係をつくっている（図6）。

3. 行為の複合に着目した都市・建築空間の構成

3-1. 壁のつくる空間の関係および境界性について

行為の複合に着目した建築・都市空間の提案を行うための空間モデルとして、壁のつくる空間の関係および境界性について検討した。壁のつくる空間の関係として、壁に沿って空間が展開するもの、壁との距離によって場所性を生むもの、壁を介して隣り合い表裏を生むものなどがある。また、壁の境界性として、囲むことで空間のまとまりを強調するもの、挟むことで双方の中間に位置するもの、つながることで用途が横断するものなどがある。これらの空間の関係と行為の関係を結びつけて考えることで、壁の多様なあり方がつく新しい複合建築の構成が可能となる。



図5. 壁に挟まれた空間の事例

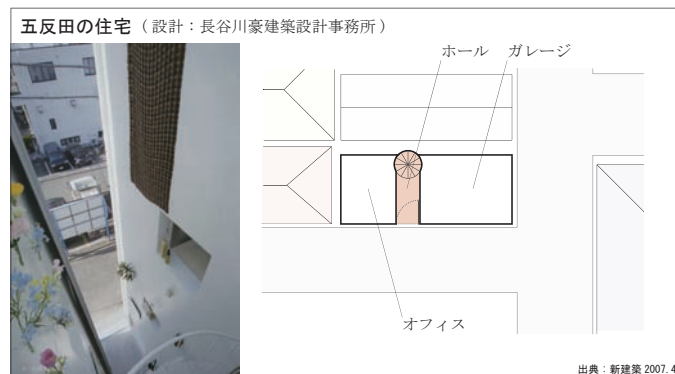


図6. 壁で囲む／囲われる空間の事例

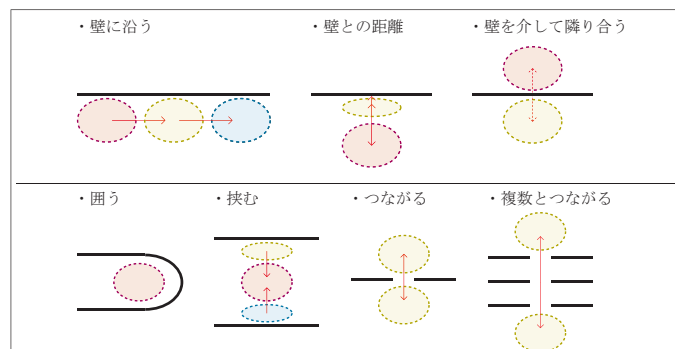


図7. 壁による空間の関係および壁の境界性

3-2. 敷地の抽出と建物の用途 日暮里の繊維街の近くの街区を設計対象地として、建物の提案を行う（図8）。この場所は戸建住宅と工場が混在し、建物が密集した地域となっている。また、地域の生活圏の中には、繊維を扱う店舗や専門学校などの外から訪れる人が多い用途や、韓国系の店舗、町工場などの地域の人にも日常的な関わりが少ない用途がある。そのような地域の希薄な関係を設計の手がかりとすることとした。

建物は、繊維に関連した用途を主として、町工場、韓国文化などの周囲の特色を取り入れ、地域のコミュニティセンターも設ける。このことにより、地域の人と訪れた人が集まれる場所となる。

3-3. Complex along the Wall 本計画ではまず、敷地周囲の環境から、行為の主体として布を買いに来た人、町工場に見学しに来た人、専門学校生、高齢者、小学生などを抽出し、それぞれを周囲から引き込みつつ、領域を緩やかに分けるようなひだ状の壁を配置した。また、路地から直接アプローチできるようにし、地域との関係によって用途を決定した（図9）。

〔地域の人と繊維関連の用途との関係〕

「制作＋展示・販売スペース」（図10）では、制作する人と展示をみる人が同じ空間を共有することで、展示だけでなく制作にも興味を持ち、行為の展開がおこる場とする。また、「カフェ＋制作スペース」（図11）では、制作スペースでつくられたテーブルクロスをか



図8. 敷地周辺図



図9. 周辺環境の抽出

フェで使うといった間接的な用途どうしの関係をつくり、行為の展開を行うきっかけを考えている。

〔地域の人と韓国関連の用途との関係〕

「図書スペース+韓国食材の店舗+キッチンスペース」(図12)では、図書スペースで料理本を読み、その後街の韓国食材店で材料を買い、その後建物に戻りキッチンで調理をするといった、街の用途を空間的關係の中にとり込んだ行為の展開をつくり、地域内での活動を充実させることを考えている。

〔地域の人と町工場関連の用途との関係〕

「待ち合わせスペース+町工場レクチャースペース」(図13)では、高校が近くにあることから高校生の待ち合わせスペースを配し、隣接して町工場のレクチャースペースを設け、それらを壁の開口によってつなげた。高校生は友達と待ち合わせをしながら町工場のレク

チャーを聴くといった行為の複合をつくり、町工場の活動について日常的に触れられる場とする。「休憩スペース+町工場映像スペース」(図14)では、町工場にきた人と地域の人が主体とする用途が重なっており、地域の方は休憩しながら町工場関連のムービーを観るといった行為の複合をつくり、町工場について興味を持ってもらう場としている。

4. むすび 本計画ではまず、建築・都市空間における行為の複合について着目し、事例をもとにした分析と考察を行った。それらをもとに、敷地のコンテクストを活かしながら行為の複合をつくることで、用途どうしが空間的に結びつき、従来は関係の稀薄なものどうしの接点となり、新たな関係をつくり出すような複合施設の提案を行った。

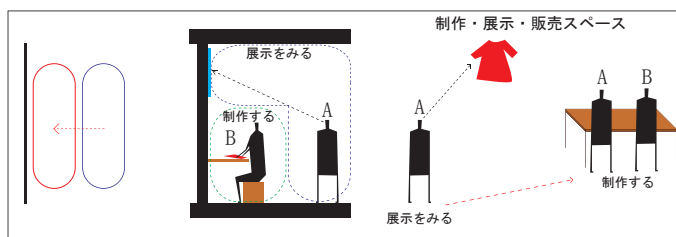


図10. 制作+展示・販売スペース

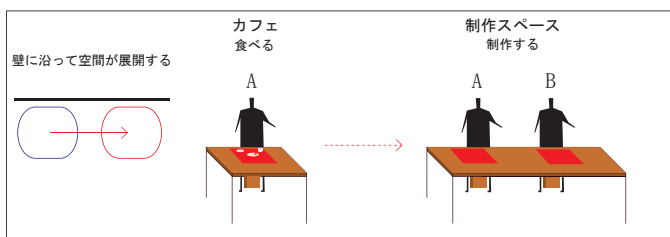


図11. カフェ+制作スペース

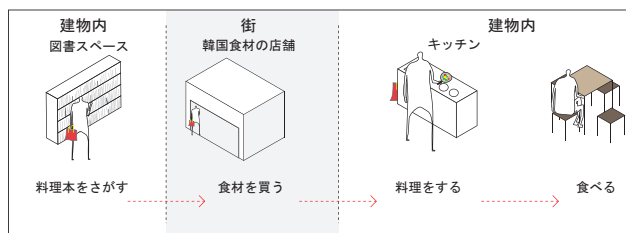


図12. 図書スペース+韓国食材の店舗+キッチンスペース

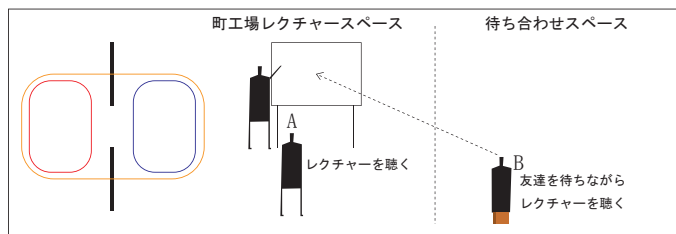


図13. 待ち合わせスペース+町工場レクチャースペース

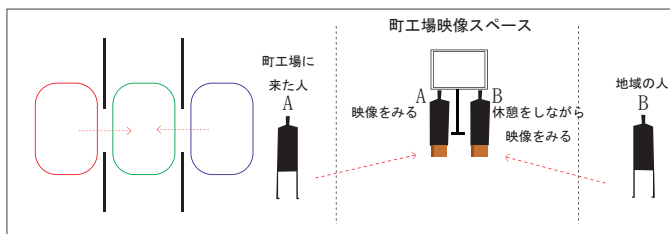
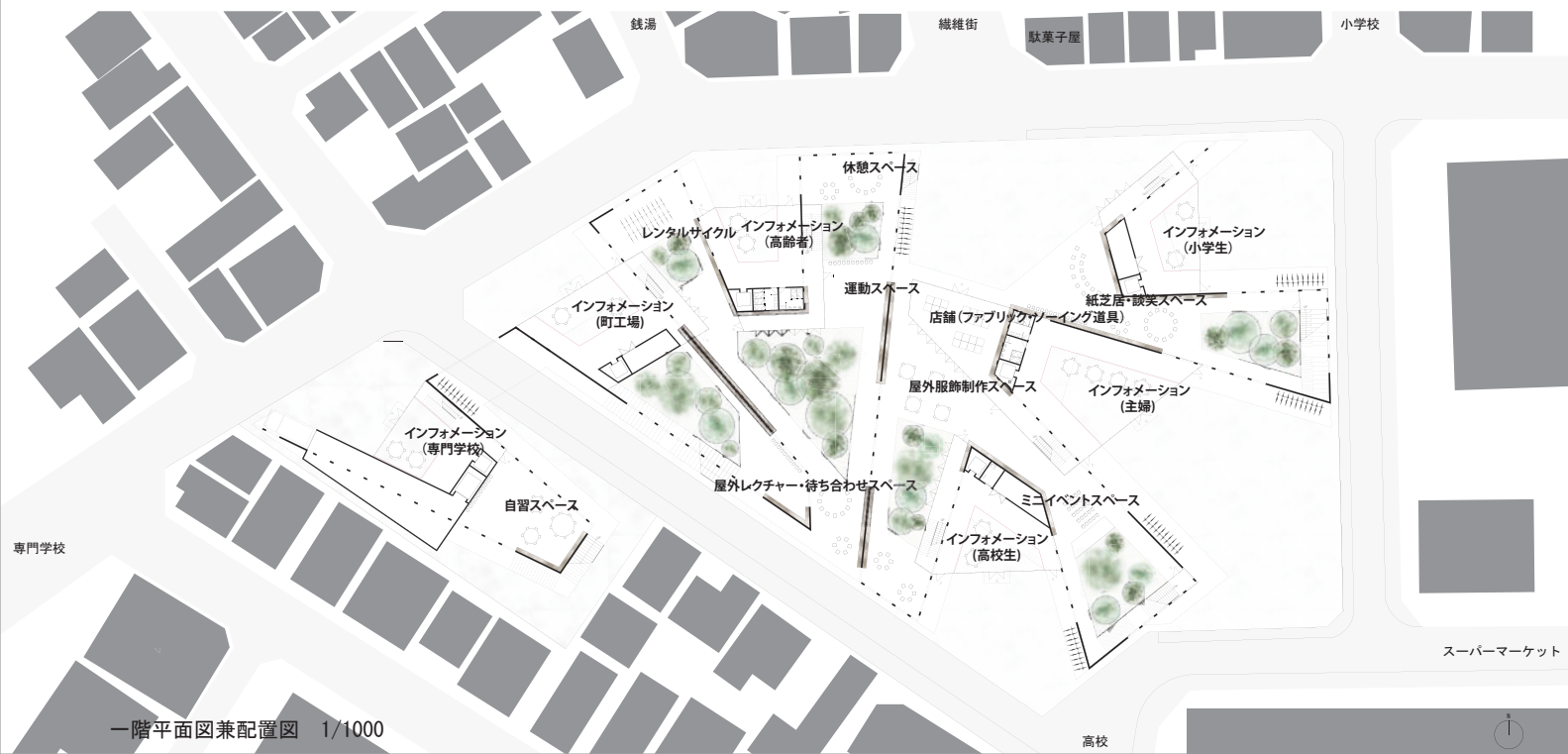


図14. 休憩スペース+町工場映像スペース





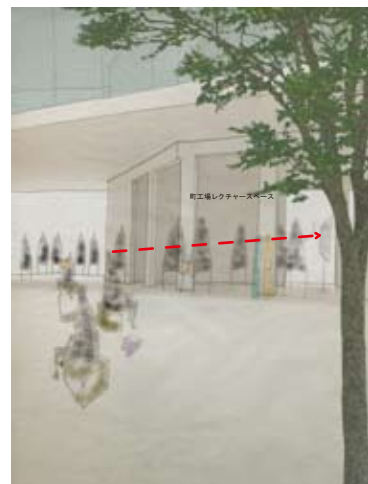
イベントホール（フリースペース時）



制作 + 展示・販売スペース



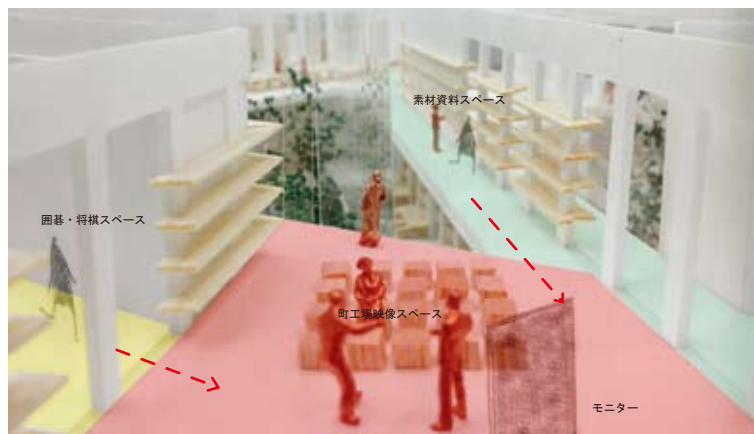
カフェ + 制作スペース



町工場レクチャースペース



休憩スペース（銭湯から来た人、繊維街から来た人）



休憩スペース + 町工場映像スペース

